

2 研究の実際

(3) 道徳科の評価の考え方

ア 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に示された評価の考え方

(ア) 評価の意義

- ・児童生徒に自身の学習状況や道徳性に係る成長を確かめさせ、その努力を支援する。
- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長に対する共感的な理解を基に、自らの指導を評価し、指導方法の改善に努める。

(イ) 評価の基本的態度

- ・教師が確かな指導観をもち、1単位時間の授業で期待する児童生徒の学習を明確にした指導計画が必要である。
- ・道徳科で養う道徳性は、個人の問題に関わるものであり、どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。
- ・児童生徒自身による自己評価を充実し、常に児童生徒を受容し尊重する共感的かつ確かな児童生徒理解に基づく道徳性の評価を心掛ける。
- ・道徳性の評価の基盤には、教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる、共感的な理解が存在することが重要である。
- ・児童生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組むきっかけとなるような評価を目指す。
- ・道徳性は、個人内の成長の過程を重視する。

(ウ) 道徳科に関する評価

- ・数値による評価ではなく記述式である。
- ・相対評価ではなく個人内評価として行う。
- ・比較して優劣を決める評価はなじまない。
- ・内容項目ごとではなく大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行う。
- ・発達障害等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有する。
- ・指導要録の書式における既存の欄も含めて、その在り方を見直す。

(エ) 道徳科の授業に対する評価

明確な意図をもって指導方法の計画を立て、学習指導過程で期待する児童生徒の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。その観点としては、以下のものが考えられる。

- ・自己を見つめ、自己(人間として)の生き方について考えを深められるように構成され、指導の手立ては適切であったか。
- ・児童生徒が多面的・多角的に考えていたか。
- ・発問は、指導の意図に基づいて的確になされ、児童生徒の反応を適切に生かしていたか。
- ・児童生徒の発言を傾聴し、受け止めようとしていたか。
- ・特に配慮を要する児童に適切に対応していたか。

イ 本研究における評価の進め方

(ア) 道徳科に関する評価(児童生徒に関わる評価)

本研究では、道徳的価値に対する児童生徒の意識の変容を数か月間(長いスパン)と1時間ごとの授業(短いスパン)の両面から見取るために以下の手立てを考えました(図1)。

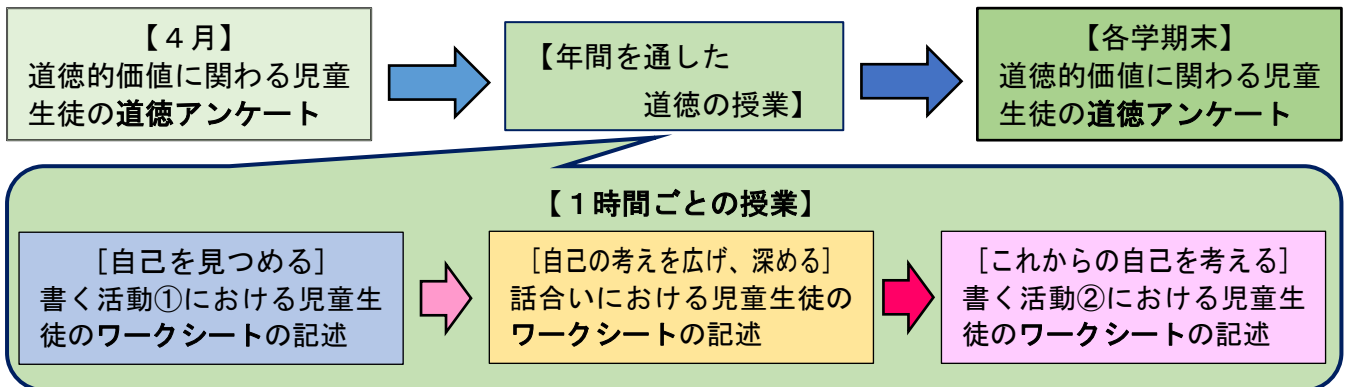


図1 評価のための手立ての流れ

道徳アンケート、ワークシートの記述において、ねらいとする道徳的価値に関わる児童生徒の意識がどのように変容したかを見取ることで評価に生かすことができると考えました。

道徳アンケートやワークシート等、児童生徒が記述したものをファイリングし、整理しておくことで、一人一人がどのように変容し、どのような自己評価を行っているかを把握できると考えます。また、1時間の授業における意識の変容だけではなく複数時間の授業を踏まえた児童生徒の変容を見取ることができ、複数の内容項目を含めた大きくくりなまとまりとしての評価に生かすことができると考えます。

さらに、児童生徒が記述した内容を基に、記述式の評価を考えることができます。児童生徒にとっては、ファイリングしたものを定期的に振り返ることで、児童生徒が自身の学習状況や道徳性に係る成長を客観的に捉えることができ、道徳的実践への意欲を継続していけると考えます。

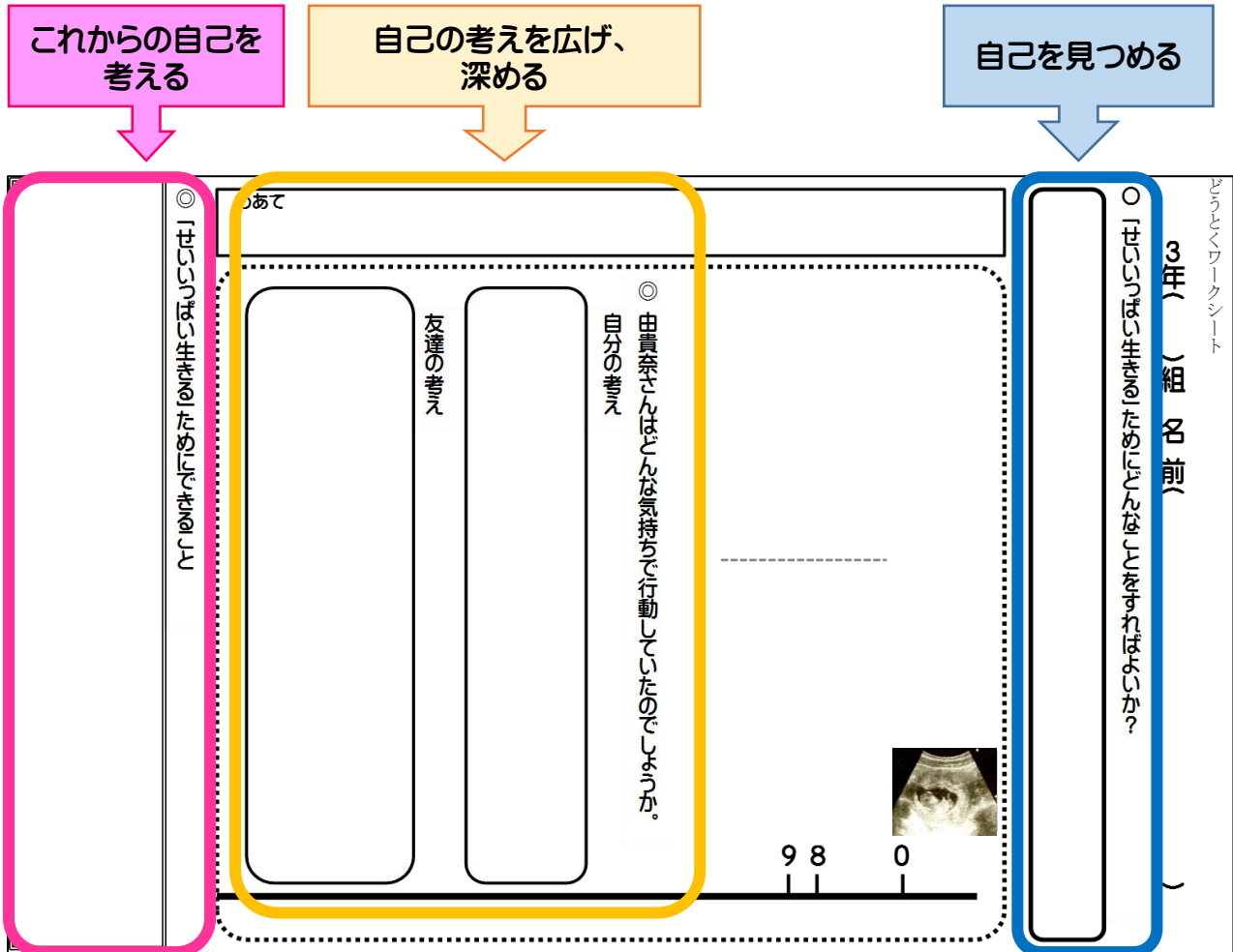
道徳アンケート (中学年)		1回目		2回目	
番号	しつ問こう目	◎△	りゆう	◎△	りゆう
例	べんきょうやうんどう、しごとなど自分でやろうときめたことは、ねばり強く、くじけずにがんばっている。	◎	かんごしになるためにいえてべんきょうしている。なわとびのれんしゅうを毎日がんばっている。		
1	正しいこととまちがっていることを自分でかんがえてこうどうしている。				
2	うそをついたりごまかしたりしないで、しょうじきに生活している。				
3	けんこうやあんぜんに気をつけ、きそく正しく生活している。				
4	自分のわるいところはなおそうとし、よいところはよりよくしようとしている。				
5	べんきょうやうんどう、しごとなど自分でやろうときめたことは、ねばり強く、くじけずにがんばっている。				

学期末にその学期で実施した内容項目について記入させ、4月からの変容を見取る。

資料1 道徳アンケートの一部

b 段階を踏まえたワークシートについて

本研究では、「自己を見つめることができたか」「自己の考えを広げ、深めることができたか」「これからの自己を考えることができたか」の3つを児童生徒の変容を見取る視点として設定しました。これらの視点を意識して記述させるようにワークシートの構成を考えました(資料3)。



資料3 ワークシートの例

授業では、書く活動①、話し合い、書く活動②を設定し、それぞれの時間を確保しました。授業後にワークシートを回収し、それぞれの段階でどのような考えをもっていたのか、授業の中でどのような意識の変容があったのかを見取るようにしました。

ワークシートを作成する際は、児童生徒の変容を見取る視点を踏まえた上で、授業の流れに沿った問いの中で、「何を書かせるのか」ということを吟味することが大切であると考えます。

また、授業後は、児童生徒のワークシートの内容にコメントを添えて返却することが直接の評価につながっていくと考えます。

c ノートやファイルの活用について(資料4)

道徳アンケートやワークシートは、道徳ノートや道徳ファイルに整理させるようにしました。また、授業で用いた資料、板書の写真等も一緒にまとめておくことで、授業の振り返りがいつでもできるようにさせました。11月に道徳アンケートを記入する際に、どのような授業を受けてどのようなことを考えていたのか振り返ることができていました。

実際には、授業の導入で過去の授業を振り返ったり、記述式の評価を行う際の参考にしたりすることができると考えます。また、ノートやファイルを家庭に持ち帰らせて保護者にも見てもらうことで、家庭教育との連携を深め、実際の生活の中で生きる評価につながるのではないかと考えます。



資料4 道徳ノートの活用例

(4) 道徳科の授業に対する評価(教師の指導に関わる評価)

学習指導要領解説の評価の意義で示されているように、まずは児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長を共感的に理解することが大切であると考えます。そのことを踏まえ、児童生徒の記述内容をねらいとする道徳的価値に照らして、どのように変容したのかを全体的に捉えることが必要になります。本研究では、児童生徒の変容を見取る視点を基に、学級全体でどのような変容が見られたのかを捉えるようにしました。

学習指導案の中では、期待される児童生徒の姿(教師の願い)という形で記述をすることで評価を意識して学習を進めるようにしました。学習指導案の中では、期待される児童の姿(教師の願い)で示しました。この結果を踏まえて、「適切な発問であったか」「ワークシートの内容は適切であったか」「児童生徒の反応を生かすことができたか」などの視点で自らの指導を評価し、指導方法の改善に生かしていけると考えます(資料5)。

	学 習 活 動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 期待される児童の姿(教師の願い)
展 開	2 由貴奈さんの詩やエピソードを読み話し合う。 【話し合い】 グループ ↓ 全体	○由貴奈さんはどんな気持ちで行動していたのでしょうか。 ・周りを明るくしたい。 ・周りのお世話をしたい。 ・周りの人を悲しませたくない。 ・周りの人を楽しませたい。	・由貴奈さんの院内学級でのエピソードを紹介し、行動の裏に隠れていた気持ちを想像させる。 自分だけでなく周りの人のためにも生きていこうとする由貴奈さんの思いを感じている。 ・由貴奈さんは亡くなってしまったことを伝えることで、今生きている自分たちにできることは何か考えさせるきっかけとする。
	3 「せいっぱい生きる」ためにできることについて考える。 【書く活動②】	○今より「せいっぱい生きる」ためにできることを書きましょう。 ・友達に優しくする。 ・家族を悲しませない。 ・周りの人を大切にする。 ・周りの人が喜ぶことをする。	・「せいっぱい生きる」ためにできることをワークシートに記述させ、できることが見つかった児童はネームプレートを裏返して黒板に貼り直させる。 今後の生活の中で具体的にどのように行動していきたいか記述することができ、自分の気持ちの変化を確かめている。
終 末	4 「たすけ合って生きる」の範読を聞く。	○日野原重明さんの「たすけ合って生きる」を聞いてください。	・日野原さんのメッセージに込められた思いを感じることで、日々の実践への気持ちを高めさせる。

資料5 学習指導案の例

《参考文献》

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 平成27年 7月
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 平成27年 7月